


# 奨励賞（コーディネーターの部）

<p>企業・団体名</p>	<p>NPO法人 JAE</p>
<p>プログラム名</p>	<p>泉南市におけるキャリア教育推進活動</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>泉南市の「小中学生の自己肯定感が低い」「将来展望が狭い」といった子どもの現状に対し、普段触れあう将来のモデル像となる大人の姿が限定されていることや、校種間連携の必要性に焦点を当てた。</p> <p>まずは保幼小中学校それぞれの段階で「様々な生き方」に触れながら学びと将来を繋ぎ、夢や目標に向かって自ら考え行動する力を身に付けられるよう、先生方が連携しながら子どもの実態とめざす姿を見つめ続ける体制を検討。地域と連携のもと、「泉南中学校区キャリア教育推進委員会」の発足に携わった。</p> <p>その後、具体的な取組の一つとして課題解決型授業「ドリカムスクール」を開始。ドリカムスクールでは、地域企業で働く若手社員が子ども達の上司役となり、実際にその企業が抱えている課題に即したミッションを子どもたちに与える。子どもたちは解決策を仲間と共に深く考え、社員にプレゼンテーションする。</p> <p>泉南市におけるドリカムスクールのもう一つの狙いは子どもと社員が互いに学び合い、地域が繋がりを直すこと。地元企業の社員は地元出身者が多い為、校区の卒業生が多く勤務する企業と繋ぎ、子どもの頃からキャリア教育のアプローチを図ることで子どもたちの将来の可能性を広げる。そこに社員が関わることで大人も学び直す機会となり、自己肯定感を持ち社内で自らの活躍の場を作りだせるような人材に成長していくことも期待している。ドリカムスクールの実施により、地域で働く姿や、将来の生活をイメージできていなかった子どもたちが、自分の好きなことや興味のあることを知ったり、人と協働しながら答えがない課題に取り組む経験を積むことで自己肯定感向上や今後の学習への意欲向上へとつながっている。また、取組で出会った社員とはその後も地域の祭りやお店等で再会するなど、この取組をきっかけに地域を少しずつ身近なものと感じるようになっていく。</p>
	<p>ドリカムスクール開催の様子</p> <p>左：社員さんによる学校での事前リハーサル。先生に対して子どもたちに話すのと同じようにプレゼンテーションを行っている様子。</p> <p>右：学校での授業の様子。企業紹介とミッションを子どもたちに伝えている様子。</p>
	<p>上：工場見学の様子。子どもたちに対して各部署の社員さんが詳しく仕事内容を伝え、子どもたちも真剣に聴きながらメモを取ったり写真を撮ったりしている様子。」</p> <p>下：子どもたちと社員さんが課題解決にむけて主体的に対話をする場面</p>

活動の内容 (詳細)	「有効性」についての具体的な取組、工夫している点など
	<p>泉南エリアにおける0～15歳の成長過程におけるそれぞれのあるべき姿を2011年に明確にした上で、市内各小学校の5年生にこうあってほしいという姿を明文化し、その解決手段としてのドリカム開催を企画している。</p> <p>ドリカムスクール開催に当たっては、サポートスタッフとして地域の大学生や社会人にもボランティア参加してもらっている。それによって泉南市内の子ども達が普段なかなか会うことのない様々なロールモデル(大学生や地域外の社会人や大人)との出会いの場を提供することに繋がっている。</p> <p>年間を通して教育委員会とコミュニケーションを取りながらプログラム内容を踏まえた実施校の選定やキャリア教育プログラム実施の方針のすり合わせをしている。また、学校においてはそのプログラム実施効果の明確化やアンケートによる効果測定を実施、その内容を報告書にまとめた上で学校、教育委員会に共有し振り返りを実施している。</p> <p>学習者のキャリアに対する意識改革と行動変容については、「事前・事後アンケート」に記入してもらうことを徹底し、前後の経過観察を行っている。これらは年度ごとに保管し、各校との打ち合わせや振り返りの際に提示、その後子どもたちがどのように成長しているのかを教員からヒアリングしたものと照らし合わせた状況を定性評価として記録し、効果検証材料として次年度のプログラム策定に繋げている。</p>
	「支援実績」についての具体的な取組、工夫している点など
	<p>① 参加社員に対して「社会人基礎カシート」「目標設定シート・ふり返しシート」を実施し、常に参加社員の事前事後の状況を把握した上で、経営者や人事担当者との振り返りを行いプログラム内容の恒常的な改良を行っている。</p> <p>その結果、企業にとってのプログラムの価値が評価され</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泉南市商工会と連携し、地域での連携を促進するために各企業への広報を実施してもらっている。</li> <li>・ 実施企業から、関心を持ちそうな企業を紹介してもらうように促している。</li> </ul> <p>② 前述のように全中学校区に於いて教職員研修を実施しており地域と連携するための土壌造りは実施している。</p>
「産学の関係構築への貢献」についての具体的な取組、工夫している点など	
<p>① プログラムの計画に沿って、支援する人材・企業と時間や場所、必要物品、事前学習等の実施に関する連絡調整を行っているか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会との定期的な打ち合わせ／社員と先生の事前打ち合わせの徹底</li> <li>・ プログラム参加社員の上司との事前打ち合わせの徹底</li> <li>・ 企業と学校とそれぞれプロジェクトリーダーを設定してもらい、互いの情報共有や動きの効率化を図っている。</li> </ul> <p>② 産学教育関係者の相互理解を深め、効果的な教育作りを持続的に推進するための議論の場や勉強会等を設けているか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員達が工場見学できる会を執り行った。</li> <li>・ 地域の教職員研修に社員が来て、自身の職業観や人生観について講話を行った。</li> <li>・ 泉南市商工会との定期的な情報交換を実施している。</li> </ul> <p>③ 産学協働の持続的な関係づくりや、その拡大に向けての効果的な普及・啓発活動を推進しているか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年同じ企業と連携することで、社内にドリカムスクールを体験した社員が年次で増えていく。これにより、企業理念の浸透や共通言語・共通意識が持てる社員が社内に増加。</li> <li>・ 定期的なJAE主催の勉強会の実施を通して、泉南市内におけるキャリア教育に関わる企画実践につながっている。</li> </ul>	

<審査委員からの評価コメント>

○「ドリカムスクール」等を中心に、実践企業のアドバンテージである環境を核とした学習プログラムが明確に企画されている。学校・行政・地域・企業等が連携も構築されており、教える側・教わる側のニーズや協働体制が構築している。本実践により汎用性を持たせ支援実績をどのように広げていくかが課題である。